

様式第2号（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回川島町総合振興計画審議会	
開 催 日 時	平28年10月13日（木）午後2時から3時45分	
開 催 場 所	川島町役場 2階中会議室	
議 題	(1) 川島町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について (2) その他	
公開・非公開の別	公 開（傍聴者0名） ・ 非公開 ・ 一部非公開	
非公開の理由 (非公開の場合のみ)		
出席者	委 員	西村委員、関委員、牛村委員、五島委員、鈴木委員、南間委員、今井委員、岩山委員、大野清子委員、大野美寿代委員、清水委員、坂井委員、矢田堀委員、国本委員、宮崎委員
	事務局職員	政策推進課 石川主幹、伊原主査、品川主事
配 布 資 料	会議次第、資料1～2	
審議会等の内容・概要		
<p>1. 開 会</p> <p>（事務局より会議の開会にあたり、川島町審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、会議は原則公開であることを説明する。なお、会議録を公開するが、発言者名は記載しない旨で委員より了解を得る。また、J:COM 北関東川越局から選出された西川委員の人事異動に伴い、後任として坂井委員が就任したことを報告する。）</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>会 長：議事に入る前に、議事録署名委員を指名する。鈴木委員と宮崎委員にお願いする。</p> <p>3. 議 事</p> <p>(1) 川島町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について</p> <p>（事務局にて、資料1、2を用いて説明。基本目標ごとに意見をいただく。）</p> <p>○基本目標1【若い世代が魅力を感じる子育て支援の充実】</p>		

委員：学力向上に係る施策について質問がある。秋田県など学力の高い地方は、少人数で学習していることによるという情報がある。このことから言うと、川島町も同様に少人数で学習している。それなのに学力が低いということについて、原因は把握しているか。

事務局：原因の把握までできていない。

委員：家庭によっては、子どもの教育より生活していくのが精一杯という家庭もある。母子家庭で、なかなか子どもに十分な時間を割けないという母親も多い。このような状況の子どもたちについて、考えていかなければいけないと感じる。

委員：団塊の世代であり、学年の人数が非常に多い環境で育ったが、落ちこぼれた子はいなかった。近年は教育環境について、人数ばかりが取り沙汰されているが、大事なのは教育の中身の問題だと考えている。先ほど、生活が大変で良い教育を受けさせられないという話があったが、そういう状況の子どものためにどのように良い教育環境を与えるかというのが、町独自の施策になると思う。基本的な学力をしっかりと身につけられるよう教育のレベル自体を上げるのが大事である。学力を上げることに一生懸命注力していけば、学力は必ず上がる。

委員：中学校でのボランティアや、塾講師をしている立場から言うと、学力調査は、高校受験に必要な内申点や成績に加味されないため、本気で取り組まない生徒が多いのが実際である。このため、学力調査の結果が低いからといって、本当にその自治体の子どもたちの学力が低いとも言い切れないと考える。また、県平均を下回っているという状況は、中学生のうちから他の自治体の中学生と比較できていないということが関係していると考えられる。高校に入学してから、町外にはこんなに学力の高い生徒がいたのか、学力の高い中学があるのかと思われ知らされる。町外に視野を広げ、学習に対する意識を他の自治体と比べることや、競争意欲を高めていくことが必要である。

会長：シートの中で、評価が「一」になっているものがある。これは、平成27年度は測定できないが、測定可能な年度からは評価が明記されるということだよいか。

事務局：見込みの通りである。

会 長：学力の向上については、「学校の質を上げる」という点に力を入れて進めて
いただきたい。

事務局：学力調査結果の分析状況については、担当課に確認し、後日お伝えする。

委 員：学力調査については、児童・生徒がいつも解いているような出題形式と異な
っており、解き慣れていないと回答が難しいものである。調査結果は「この
問題についてはどのような指導が足りなかったか。それを普段の授業でどう
活かしていくか。」という視点で、各校で分析している。町や教育委員会、
町内各小中学校でも、私塾との連携のような学力向上施策を実施していくこ
とで、学力の向上を図っている。

会 長：教育については、単年度で成果を出すのは非常の難しい。平成31年度には
成果が出るよう年度ごとに着実に進めていただきたい。

○基本目標2【地域産業の活性化と雇用の創出】

会 長：指標について、単年度の目標数値なのか、数年累計の目標値なのかわかる
ように表記していただきたい。

事務局：そのように対応する。

○基本目標3【子どもからお年寄りまでふれあい、安心して健やかに暮らせる地域づ くり】

委 員：公共交通についてだが、現在町がタクシーを使ったオンデマンド交通に取り
組んでいるのは理解しているが、高校生の移動支援も重要である。東武バス
は便数も少なく運賃も高い。公共交通の話とは離れるが、この資料を見ても、
中学生までの支援は厚いが、高校生になると支援がない。先日、高校生の保
護者を対象とした通学に関するアンケートが送付されたが、過去にも何度か
同様のアンケートが送られてきていて、その度に町外に出るための支援が必
要と回答したが、反応は無かった。子どもが一人自転車で通学しているが、
街灯が無く帰宅時間は真っ暗であったり、雑草が伸びていて見通しが悪く危
険である。このような状況も含め、高校生への支援を考えていただきたい。

事務局：中学生や高校生の移動支援についてはこれまでも検討を行ってきたが、効果
的な支援策は実施できていない状況である。今回のアンケートを集計してい

ても、高校生の通学支援について、保護者の方は切実な思いを持っているということを改めて実感している。しかしながら、川島町は橋を境に多方面に移動需要が分散していることから、移動支援を行うにしても、要望が多岐に渡り集約が困難である。このことから、高校生のみならず、川島町の公共交通のあり方を定め、町民の方々に示していきたいと考えている。若い世代の移動についても、何とか支援できるよう努めていきたい。

会 長：交通弱者に対する支援について、具体的な施策が実施できるような状況になった場合は、総合戦略を改定して明記していただきたい。

事務局：そのように対応する。

委 員：高齢者の一人暮らしの家がこども 110 番の家になっていて、子どもたちにもしものことがあった場合に不安になることがある。110 番の家の見直しはどのように行っているのか。

委 員：110 番の家は、取りまとめをしている方がいる。その方に問合せれば良い。

○基本目標 4 【人を呼び込む観光・交流の活性化】

会 長：取組が多く設定されているが、K P I が 2 つの指標しかない。観光周遊ルートやふれあいパークといった取組がありながら、K P I が観光農園に関するものしかないというのはいかがなものか。K P I をもう少しきめ細やかに設定していただきたい。

事務局；対応を検討する。

委 員：観光に力を入れていくようだが、新たに観光を専門に行う課を設置するのか。現状はどこの課が行っているのか。

事務局：現在は農政産業課が所管している。新たな課を設置する予定はないが、社会情勢の変化に伴い、今後組織の見直しを行っていく。その中で、いただいたご意見も含めて検討していきたい。

委 員：観光農園は現状町内に何箇所あるのか。

事務局：4 箇所である。


委 員：観光農園は、中途半端な規模では成功しない。ある程度の規模で実施するよう成功している事例を研究していただきたい。

(2) その他

(事務局にて、K Jブランド創出プロジェクトの状況について説明)

事務局：K Jブランド創出プロジェクトについて、国の交付金が採択され着々と事業を進めている。12月には、平成の森公園でイルミネーションを実施する予定なので、委員の皆様にもぜひご来園いただきたい。

4. 閉 会

署 名	鈴木 恵一 
	宮崎 美由紀 